

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月31日
2次評価日（課長等）	2年3月31日

1 事業名	生涯学習館運営事業	コード	5117
-------	-----------	-----	------

2 担当部課	部等	教育部	課等	生涯学習課	作成者	勝野 哲矢
--------	----	-----	----	-------	-----	-------

3 事業概要	目的体系	基本目標	未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち		
		政 策	生涯学習の推進	施 策	生涯学習の推進
		予算科目	生涯学習館運営事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
事業の概要 （簡潔に）	すべての年齢層にわたる市民等が気楽に集い、ふれあい、学びあい、生涯を通じて自らを高めていく場として、多様な市民等の学習を支援していくための生涯学習施設		
目的	対象者	市民	
	意 図	生涯を通じて学びあい、豊かな心を育てる。	

5 事業の実施内容		*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容	
<ul style="list-style-type: none"> 各種講座・学級・講演会等の企画・立案・開催といった学習機会の提供 ロビー・催事場を含めた館の活用や利用の推進 学習グループの育成・支援 文化祭、ホリデイスクエアなどの発表機会の提供 			
前年度の課題への対応			

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	各種講座開催回数			単位	回
実績値			145		
* 指標の説明	カルチャセンターでの講座開催回数				
② 成果指標（指標名）	各種講座参加者数			単位	人
目標値			142,500	143,100	
実績値			117,928		
達成度	-	-	82.8%		
* 指標の説明	カルチャーセンター・公民館の学習講座参加者数				
* 目標値の設定方法の説明	5総KPI				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	0	0	2,351,594	2,790,000
経常経費			2,351,594	
臨時的経費			0	
* 臨時的経費の説明				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	0	0	18,800,000	18,800,000
正規職員の人数(人)			2.35	2.35
③ 合計コスト(①+②)	0	0	21,151,594	21,590,000
前年度比			-	102.1%
財源	0	0	21,151,594	21,590,000
内訳			0	
一般財源				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	-	-	145,873	
前年度比			-	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	-	-	0.00%	0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	1	
成果指標の実績値 前年度比	-	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	1	0
成果指標の目標値 達成度	82.8%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)	
改善方法	(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	改善開始時期	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	--	---